

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 八丈方言の語彙：1950年調査との比較

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002406">https://doi.org/10.15084/00002406</a>

# 八丈方言の語彙

## －1950年調査との比較－

木部 暢子

### 1 1950年の語彙調査

1950年の国立国語研究所「八丈島の言語調査」では、八丈方言の語彙に関して、2つの調査が実施されている。一つは、八丈島に関する各種の文献から八丈島方言に関する単語を抜き出し、語彙集としてまとめるという調査、もう一つは、大田南畝（1748－1823）著「一話一言」所載の「八丈方言」の語彙207語の追跡調査である。

まず、八丈関係の文献に現れる単語調査では、建武2（1335）年の「八丈年代記」から昭和23（1948）年の「八丈方言の研究」（北条忠雄）にわたる47の文献を対象として調査が行われ、それらの中から約4700語の八丈方言の単語が集められている。元資料となった47の文献は、それぞれ成立年代や成立の背景を異にし、方言語彙の収録態度や表記法もまちまちで、集められたデータも様々な性質のものが混在しているが、江戸時代から昭和にかけての八丈島方言の語彙の状況をまとめた分量で把握することができるデータとして、貴重なものである。これらは『八丈島の言語調査』（1950）の巻末に90頁にわたって紹介されている。

次に、「一話一言」の語彙の追跡調査について。「一話一言」は大田南畝の著作であるが、その中の「八丈方言」の部分は、「八丈島俗通志」から転載したものだという（原典の著者、作成年代は不明という）。1950年の調査では、「一話一言」収録語210語のうち207語について、各村4名ずつ（70代以上、50～60代、30～40代、10～20代の各1名）に、それらの語を現在も使うか、使わないかを記入してもらおうという調査を実施している。各集落、207語の調査結果は、『八丈島の言語調査』の218－260頁に掲載されているので、詳しくはそれを参照されたい。全体的な傾向としては、207語のうち163語（78.8%）が島のどこかで使用されている、逆に言うと、「一話一言」から1950年の調査までの150年の間に約20%の語彙が使用されなくなったという結果が出ている。

### 2 2012年の基礎語彙調査

1950年の調査結果を受けて、今度は2012年の調査までの60年間に語彙がどのくらい変化したかを見てみることにしよう。ただし、2012年の調査は、基礎語彙550語についての調査が目的で、「一話一言」の追跡調査を行ったわけではない。したがって、比較の対象となる語は、2012年調査の基礎語彙調査項目と「一話一言」所載語彙に共通する単語、54語だけである。また、2012年の調査では、「一話一言」の語形を示し、それを使うかどうかを尋ねるという調査方法をとっていない。もし、このような聞き方をしたとしたら、あるいは「一話一言」と同じ語形がもっと出てきたかもしれない。この点で「一話一言」、1950年調査の結果、2012年調査の結果の3者を単純に比較することはできないが、この60年間の変化のおおまかな傾向はつかめるのではないかと思う。

それを示したのが、以下の表である。

表では左から3列目に「一話一言」の語形を、その右の列に八丈の各集落の語形をあげている。八丈の各集落の語形の欄は、上段と下段に分けてあり、上段に1950年調査の結果を、下段に2012年の調査の結果を記入している。表の記号の読み方は以下のとおりである。

凡例

- ：「一話一言」と同じ語形を使う。
- ：多少ちがった語形を使う。
- ×：別の語を使う。
- △：聞いたことはあるが使わない。

上段：1950年調査の結果。「一話一言」に掲載されている語が使用されているかどうかを上記の記号で示したもの。○と●の二つの記号が入っている欄は、集落内で使用語形に年齢差があることを表す。（『八丈島の言語調査』223～234頁より引用）

下段：2012年調査の結果。「一話一言」に掲載されている語が使用されているかどうかを上記の記号で示したもの。また、調査で得られた具体的な語形を記号の後にあげておく。

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
H-030	尻	シゲタ	●	○	●	○	●○
			●シンベタ	●シンベタ	●シッベタ, ×オシリ, シリ ッペタ, シッペ タ	●シッベタ	●シゲタ, × シリ
H-053	涙	メナタ	●	●	●○	○●	●○
			○メナダ, ナ ミダ(新)	○メナダ	○メナダ, × ナミダ	○メナダ	○メナダ, ナミダ
H-135	魚	ヨ	○	○	○	○	○
			○ヨ	○ヨ	○ヨ	●イヨ, イヨ, ×サカナ	○ヨ, サカナ
H-145	雄牛	ソウメ	●	●	●	○	●
			×ウシメ	●ゾクメ	×ウシメ	×ウシメ	×ウシメ
H-145	雌牛	バメ	○	○	○	○	○
			○バメ	○バメ	○バメ	×ウシメ	×ウシメ
H-145	老牛	ゾク	×	○●	●○	●○	●
			●ゾクメ, ズ ック, ズックメ (雄牛)	○ゾク, ズクメ	●ゾック, ズ オックメ(雄牛)	×ウシメ	×ウシメ
H-145	子牛	ヲシヨ, コ コメ	●○	○	●	●○	●○
			×チョンコメ	×	×チョンコメ	×ウシメ	×チョンコメ
H-152	猫	カワフク ロ, 常々 はネツコメ	×	×	×	×	×
			×ネツコメ	×ネコ, ネツコ メ	×ネツコメ, コ ネツコ(子猫)	×ネツコメ	×ネツコメ

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
		といふ					
H-158	蜘蛛	クボナ	×	×	○	×	×
			×クモメ, トンチャルメ (蜘蛛の一種)	×トンチャルメ, トージンツアル, トージンチャル	×クモ	×テンコメ	×テンゴメ,
H-160	蝶々	ヒイル	×	●	○	○	○
			×チョーチョメ, ヘッチョメ	×チョーチョ, チョーチョーメ	×チョーチョ, チョーチョメ	×チョーチョ	×チョーチョメ, チョーチョ
H-170	蚕	コナ	○	○	○	○	○
			○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ	○コナサマ(尊敬語)
H-171	カマキリ	ベムメ	×	×	○	×	○
			×カマキリ	×カマキリ	×カマキル	×ゲンビーマ	×カマキリ(メは付かない)
H-172	トンボ	へツ, ソメ	×	○	●○	●○	●
			×トンボメ	●へッチョメ, へツオメ	×トンボ, トンボメ	●へッチョメ	×トンボ, トンボメ
H-177	雀	ツメ	●○	●	●○	○	●○
			×スズメ~スズメ	×ス, ツメ, スズメ	×スズメ~スイズメ	×スズメ	×スズメ, スズメ
H-178	鳩	シャートメ	●	○●	○	○	●
			●ショートメ(古), ×ハットメ, ハトメ, ハト	×ハトメ	×ハトメ	×ハトメ	×ハトメ
H-192	火	ヒノヒボ	×	○	○	○	○
			×ヒ	×ヒ	×ヒ	×ヒ	×ヒ
H-217	洞窟	トウフ	×	×	×	×	×
			×ドークツ, ホコラ, ホラ	×トーラ(小さいもの, 俵も, トーラ), ホラ	×ドークツ, ホラアナ, トーラ~トーラ(木のうろ)	×ホラ?アナ	×ホラ, ドークツ
H-236	頂上	トンツムリ	●	●	●	●○	●○
			●トンツベ(低い山), ×テッペン	●トンツベ, ×テッペン	●トンツイブラ(低いところの~), ×テッペン	×テッペン	●トンブ, ●トンツブリ(古), ×チョーゾー(新)
H-245	跡	コカウテ	×	×	×	●○	×
			×アト, アシアト	×アト	×アト	×アト	×アト
H-271	朝	トンメテ	○	○	○	○	○

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
			○トンメテ (古), ×アサ	○トンメテイ	○トンメテ(早 朝。強調して 言うとトーンメ テ), ×アサ	○トンメテ(8 時頃まで), ×アサ	○トンメテ
H-273	夕方	ヤアヨウ	● ×ユーガ タ, クレガ タ(古)	● ×クレーガ タ	● ×ユーガ タ, クレ ヤ	●○ ×ユーガ タ, クレ ヤ(日が落 ちる頃), クレガ タ, ヨン ベ(夕べ)	● ×ユーガ タ, ク レー(古), クレイ ェー
H-276	暇	ヨマ	○ ×ヒマ	● ×ヒマ	●○ ×ヒマ(「合 間」はヨ マ)	○ ×ヒマ, ○ ヨマ(合 間), ヨ マシ・キ	○ ×ヒマ(「 合間」 は○ヨ マ)
H-284	着物	へヒラ	● ●へべ ラ(古), × キモノ	● ●へビ ラ	● ●へべ ラ, ×マ ダラ, × キモノ	●○ ●へべ ラ, ×マ ダラ(よ そ行き)	● ○へビ ラ
H-288	帯	ヨビ	× ×オビ	× ×オビ	● ×オビ	● ×オビ	× ×オビ
H-334	昼食	ヒヨウ	● ●ヒョ ーラ	●○ ●ヒョ ウラ, × ヒルメ シ	● ×ヒル ゲ(古), ヒルメ シ(新)	●○ ●ヒョ ーラ	●○ ●ヒョ ーラ
H-419	鎌	マカマ	● ○マガ マ	●○ ○マガ マ	● ×カ マ, ×ヒ ラテガ (草刈り 道具)	●○ ○マガ マ, × カマ	● ○マガ マ
H-423	箆	タカタラ	● ×カ ゴ	● ×カ ゴ, × ヅアル	● ×イ メン ゴ(小 さい背 負う 箆)	● ×カ ゴ, × イ メ ミ ゴ, ユ メ ム ゴ (里芋 洗 い に 使 う か ご)	× ×カ ゴ, ×イ メ ミ ゴ (里 芋 洗 い に 使 用)
H-431	長男	タロウ	× ×チ ョ ー ナ ン, チ ョ ウ ナ ン メ	● ×チ ョ ー ナ ン, ボ ー ヤ, △ タ ロ ー (使 わ な い が 知 っ て い る)	○ ×チ ョ ー ナ ン	○ ×チ ョ ー ナ ン	○ ×チ ョ ー ナ ン
H-432	二男	ジロウ	× ×ヂ ナ ン, ヂ ナ ン メ	●○ ●ヂ ョ ウ メ, × ヂ ナ ン	● ×ヂ ナ ン	○ ×ヂ ナ ン	○ ×ヂ ナ ン
H-433	三男	サボウ	×	○	○	○	○

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
			× サンナン, サンナンメ	○サボウ	×サンナン	×サンナン	×サンナン
H-434	四男	シヨウ	× ×ヨンナン	○ ○シヨウ, ×ヨンナン	○ ×ヨンナン	○ ×ヨナン	○ ×ヨンナン
H-435	五男	ゴロウ	× ×ゴナン	○ ○ゴロウ, ×ゴナン	○ ×ゴナン	○ ×ゴナン	○ ×ゴナン
H-436	六男	ロクロウ	× ×ロクナン	○ ○ロクロウ, ×ロクナン	○● ×ロクナン	○ ×ロクナン	○ ×ロクナン
H-437	七男	ヒッテウ	× ×シチナン	○ ×シチナン	× ×シチナン	○ ×シチナン	○ ×シチナン
H-438	八男	ハッテウ	× ×ハチナン	○ ×ハチナン	× ×ハチナン	○ ×ハチナン	○ ×ハチナン
H-441	長女	ニヨコ	× ×チョーヂョ, チョーヂョメ	○ ○ニヨコ, ニヨコメ, ×チョーヂョ	○ ×チョーヂョ	○ ×チョーヂョ	○ △ニヨコメ(古), ×チョーヂョ~チョーヂョ,
H-442	二女	ナカ	× ×ヂジヨ, チヂョメ	○ ×ヂヂョ, △ナカ(聞いたことがある), テゴメ(?)	○ ×ヂーチョ	○ ×ヂジヨ	○ ×ヂヂョ, ニジヨ
H-443	三女	テコ	× ×サンヂョ, サンヂョメ	● ×サンヂョ	● ×サンヂョ	● ×サンヂョ	● ×サンヂョ
H-444	四女	クス	× ×ヨンヂョ, ヨンヂョメ	○ ×ヨンヂョ, △クス(聞いたことがある)	○ ×ヨンヂョ	○ ×ヨンヂョ	○ ×ヨンヂョ
H-445	五女	チイロウ	× ×ゴジヨ	● ×ゴヂョ	● ×ゴヂョ	× ×ゴジヨ	× ×ゴヂョ~ゴジヨ
H-446	六女	アッパ	× ×ロクジヨ	× ×ロクヂョ	● ×ロクヂョ	● ×ロクジヨ	○ ×ロクヂョ~ロクジヨ
H-450	父	テテ	× ×オトーサン, トーチャン(古), オヤヂ	× △テテオヤ, ×オット, オヤジ, トーチャン	○ ×オトーチャン, オトチャン	○ △テテ(古), ×オトーチャン, オヤジ	○ ×オトーチャン, トーチャン, トッチャン(古)

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
H-450	父	トウ,	×	○	×	×	○
			×	△トウ(古)	×	×	×
H-451	母	ハア	×	●	●	×	○
			×	△ホー(古)	×	△ホツワ(古)	×
H-451	母	カア	×	●	○	×	○
			×オカーサン, カーチャン(古), オフクロ	×オッカ, カーチャン, ホー(古)	×オカーチャン, オカチャン	×オカーチャン, オフクロ	×オカーチャン, カーチャン, オッカ(古)
H-452	兄	アセイ	×	●	●	○	●
			×オニーサン, アンチャン(古)	×アニ, アンチャン(「年上, 目上の人」はアセイ)	×オニーチャン, アンチャン, △アセイは聞いたことあり	×アンチャン, アニキ	△アシー(古), ×アンチャン, ニーチャン
H-453	姉	アネイ	×	○	○●	○	●
			×オネーサン, ネーチャン(古)	×ネーチャン, ネイヤ, ネイチャン(「年上の女性」は, インネ)	×オネーチャン, アンド	×ネーチャン(呼ぶときは○○(名前)ニーチャン)	×ネーチャン,
H-454	弟	ゼイ	×	×	×	×	×
			×オトート, シタノ, キョーデー	×オトウト	×オトウト	×オトート	×オトート
H-457	祖父	ヲジ	×	×	×	○	○
			×オジーサン~, オヂーチャン, ギーチャン	×ヂーチャン, ギーサン, オウサマ(古)	×オヂーチャン, オーサマ(古), オーチャマ	×ヂーチャン, オヂーチャン, オーサマ(古)	×ヂーチャン
H-465	姪	メイ, ヨウシ	○	○	○	○	●
			○メイ, ○メイヨーシ	○メイ	●メイッコ	○メーヨシ(甥と合わせて), ●メイッコ	○メイ
H-542	小さい	ネツコヒ	○	○●	●○	○	○
			●ネツコケ, ネツコキヤ	○ネツコイ, ●ネツコキヤ	×チツチャケ, チツチャキヤー	○ネツコイ(子供, ねずみ), チンゴイ(芋)	●ネツコキヤ, ネーコケ(連体)
H-543	大きい	ボライ	●○	○	○	○	●○
			●ボーケ, ×コーキヤ	○ボウイ, ボウイー, ●ボウ	●ボーキヤー, ×デカキ	○ボーイ, ×デッカイ	●ボーキヤ, ボーケ(連体)

番号	語	一話一言	大賀郷	三根	檜立	中之郷	末吉
				キャ(「大きいもの」はボウケモノ)	ヤ, デッカキャー		
H-544	低い	ミジヤイ	○ ×ヒクキャ	○ ●ミヂカイ, ミヂカキャ(キャで終わると「ーよ」のニュアンス。)	○ ×ヒクキャー	○ ×ヒ.クイ	●○ ●ミジヤキャ(古, 床が低い), ×ネッコキャ(背が低い), ×ヒクキャ(床が低い)
H-549	寒い	コゴヘル	● ●カゲール	○ ●コゲイル(コゲイロヒ寒い日)	● ×サムキャー	○ ●コギール	● ●コギール(「凍える」かも?), ×サムキャ

### 3 60年の変化

先に述べたように、「一話一言」, 1950年調査の結果, 2012年調査の結果の3者を単純に比較することはできないが, 2012年の調査で「一話一言」や1950年調査と同じ, あるいは類似の語形が回答された項目に関しては, この60年間の間にほとんど変化が起きなかったと考えてよい。そのような語は, 次のようなものである。以下には, 2012年調査で回答された語形とその使用地域を示した。ただし, それ以外の地域でも聞き方によっては, その語形が回答される可能性がある。

「一話一言」	〈2012年調査の語形と使用地域〉
・シンゲタ「尻」	シンベタ(大賀郷・三根), シッベタ(檜立・中之郷), シゲタ(末吉)
・メナタ「涙」	メナダ(各集落)
・ヨ「魚」	ヨ(大賀郷・三根・檜立・末吉), イヨ(中之郷)
・ゾク「老牛」	ゾック, ズォック(大賀郷・三根・檜立)
・コナ「蚕」	コナサマ(各集落)
・トンツムリ「頂上」	トンツベ(大賀郷・三根), トンツイブラ(檜立), トンツブリ(末吉)
・トンメテ「朝」	トンメテ(各集落)
・ヘヒラ「着物」	ヘベラ(大賀郷・檜立・中之郷), ヘビラ(三根・末吉)
・ナカマ「鎌」	ナガマ(大賀郷・三根・中之郷・末吉)
・ネツコヒ「小さい」	ネッコケ, ネッコイ, ネッコキャ(大賀郷・三根・中之郷・末吉)
・ボライ「大きい」	ボーケ, ボウイ, ボーキャ(各集落)
・コゴヘル「寒い」	カゲール(大賀郷), コゲイル(三根), コギール(中之郷・末吉)

逆に, 2012年の調査で「一話一言」と同じ語形が出にくかったのは, 「長男, 次男, ……」, 「長女, 次女, ……」, 「父, 母」, 「兄, 姉」, 「弟」といった親族に関することばである。「父, 母, 兄, 姉」に関しては, 2012年の調査では名称ではなく呼称としての回答である。「一



話一言」の「父，母，兄，姉」が親族名称なのか親族呼称なのか，はっきりしないが，親族名称・親族呼称は，他の方言でも変化しやすい傾向があり（木部近刊），おそらく，八丈方言でも呼称，名称ともに変化が早かったのではないかと思われる。

#### 文献

木部暢子（近刊）『じゃっで方言はおもしろか』岩波書店

国立国語研究所(1950)『八丈方言の言語調査』

(PDFの公開サイト [http://db3.ninjal.ac.jp/publication\\_db/item.php?id=100170001](http://db3.ninjal.ac.jp/publication_db/item.php?id=100170001))